

A decorative border composed of a repeating sequence of colored squares: yellow, magenta, green, cyan, red, purple, yellow, magenta, green, cyan, red, purple, yellow, magenta, green, cyan, red, purple. The border is arranged in a rectangular frame around the text.

第28回 日本心血管インターベンション治療学会が

2019年9月19日(木)~21日(土)に

名古屋国際会議場にて開催されます。

当院からは

臨床工学科 野口 幸 技士長

が学術発表されますので、ご紹介します。

第28回

日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2019

Innovation for Optimal Patient Care

The 28th Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics

2019年

会期

9月19日(木) - 21日(土)

会場

名古屋国際会議場

会長

尾崎 行男 (藤田医科大学
循環器内科)

重度難聴を有する PAD 患者に運動療法を導入することで下肢虚血の評価を行うことができた 1 例

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 循環器内科²⁾

リハビリテーション科³⁾ 透析センター⁴⁾

野口 幸¹⁾ 市谷和也¹⁾ 益田百合子¹⁾ 松田竜馬¹⁾ 川西 大¹⁾ 福井寛人²⁾ 齊藤精久²⁾

湯浅悠樹³⁾ 明道知己³⁾ 山岡みゆき⁴⁾ 吉岡伸夫⁴⁾ 高比康臣⁴⁾

【症例】70歳台男性の透析患者。重度難聴を発症し筆談で対応している。2018年10月に右下肢の痛みと間欠性跛行を認めた。SPPでRt-Dorsal/Plantar 17/17mmHgと低下、内服治療で経過をみていたが歩行時の痛みが増悪し造影検査となった。診断造影でRt-SFAに99%の狭窄、POP-AはCTO、BTKの血流は不明瞭であった。Primary EVTはSFAに対してballoon 5.0mmで前拡張しCutting balloon 4.0mmを追加し終了とした。治療後SPPは19/12mmHgであったが下肢痛と跛行は消失したのでPOP-Aの病変は経過観察とした。さらに血流改善目的で運動療法を導入、移動距離50mで跛行と下肢痛は出現せずSPP 41/16mmHgまで改善した。しかしながら10日後に40m歩行で跛行と痺れが出現、筆談では下肢の評価が困難であるためFace scaleを導入した。1ヶ月後の歩行前はFace scale 3、20mで跛行出現、70mの歩行でFace scale 4を認めたのでEVTの追加治療が必要と判断しPOP-AのCTOに対してEVTを行った。病変部はAstato XS 9-40で通過させInnova stentを留置し良好な造影を得て終了とした。

カテ後、SPPは59/50mmHg、跛行は消失し110m歩行でFace scale 0となり経過良好である。

【結語】重度難聴患者にPrimary EVT後に運動療法を導入し、臨床症状をFace scaleを用いてアプローチすることで治療方針を決定することができた。よって、運動療法とFace scaleによる評価は、EVT後の治療効果と診断に有効である可能性が示唆された。